

団体旅行部門



取締役兼執行役員
団体旅行事業本部カンパニー長

田ヶ原 聡氏

—— 昨年の国内団体旅行の取り扱い状況は。

「国内団体全体の売上高は、通期では3%減だった。学生団体では、東日本大震災の発生により東日本で修学旅行の一旦取り消しが相次いだ。東京ディズニーランドの休業や計画停電、原発問題もあり、西日本からの修学旅行はほとんどが中国、九州地方に振り替えになった。年度末、年度始めのオリエンテーションや部活関連の旅行はほぼすべてが自粛となり、夏近くまで好転しなかった。修学旅行の再実施や、

開催により東北を支援しようとする無事に実施された北東北のインターハイの取り扱い分で踏みとどまることができた」

「一般団体のうち法人関係では、関東以东に行くことを控えるよう指示した企業もあり、東への動きは逆風だった。自粛ムードの中、『われわれは旅行によって日本を元気にする仕事なんだ』と胸を張って言えるよう、『日本を元気に』というステッカーを作り、お客さまにも理解していただけるよう全国的に取り組んだ。結果、夏前頃から

若干持ち直してきたように思う。第2・3四半期

は、東北や北関東のボランティア関係、復興のお手伝いにかかわる取り扱いが大きかった」

「昨年の一歩の目玉であった『遠忌法要』は3月から始まったのだが、

た新体制の狙いは。

「1月から体制が変わり、地域営業本部の集合体であったカンパニーに、イベント・コンベンション・コンGRES、実際の2分野が加わった。スポーツ事業部、地域振興事業部は個人旅行部門

『仕入と支店と営業本部は何をしなければいけないのか』をひと続きで考えられるようになった。これによりスポーツイベントやECC、インバウンドの誘致情報などを能動的に入手し、営業できるようにになる」

などの国内マラソンへの取り組みだ。スポーツイベントでは昨年、第2東名でのサイクルイベントを主催運営し、8500人を集客できたことが自信になった。イベントを作り上げ各地域に誘客面で貢献をするような提案

はなく、東京の法人顧客に、修学旅行中の体験活動への協力をお願いするなどしている。また宗教関係の取り組みにより各宗派の本山とかかわりが密接になったので、京都、奈良を中心とした寺社で、閉館後に貸し切り

と考えている。東北には『平泉』という良い題材もある。今まで以上の体験学習のプログラムを開発することで東北への送客を心がけていきたい。また災害時の実際の対応や今後取るべき対応策を、教育現場の人たちが

のプログラムを開発したい。今増えている民泊についても、民泊と旅連会員さまの施設をどう棲み分けるのかを考え、とにかく地元を誘致することによって旅連会員の皆さまに貢献するような方向付けをしていきたい」

近旅連と取り組みたい事柄は。

「旅連会員の皆さまとの窓口になっている各仕入販売センターが団体カンパニーに入ったことで、ワンストップでさまざまなことができるようになる。プロモーションはじめ、今後どのような連携事業をしていけるのかを考えているところだ。団体と個人の枠を越えて、一緒にエリアや期間を絞っての販売や相互送客などの共同事業も呼びかけたい」

専門のノウハウ地域で生かす スポーツ観光で地元へ貢献を

春の取り扱いの一部を除いて中止や延期になった。延期になったものについては再募集の需要を最大限獲得するために腐心した。宿泊を伴わない形に変更したものなどもあったが、グループ全体では13万人以上を取り扱い、目標を達成することができた。これが一般団体回復の最大の力となった。一般団体の昨年の取扱高は、前年を超えた」

—— 1月にスタートし

とも連携するが、形の上ではカンパニーの中に入った。専門事業で培ってきたノウハウやお客さまを全国で共有し、営業力を強化したい」

—— 仕入販売センターも団体旅行事業本部カンパニーに入った。このメリットは。

「新しい営業体制の中で、『送客』と『誘客』を同じ目線で考えられる体制が整ったと思う。同じ目線になったことで、

—— 今年の一般団体の取り組みは。

「一般団体需要は、震災、原発を抜きにしても円高不況でほとんどの企業体力が弱っており、ずっと停滞を続けている。回復を期待するしかない。成り行き任せではないので、環境に左右されない分野を重視したい。遠慮のない今年の力ぎは『地域密着』だ」

「今年の特ピックといえば東京、京都、名古屋

をできる環境が新しい体制の中で整ってきたので、今叫ばれている地域振興のための『スポーツ・ツーリズム』を実践し、地域に貢献したい」

—— 教育旅行にはどう取り組むのか。

「今までは全国の教育旅行の販促担当者が、各支店の営業担当者、支店長と連絡を取りながら方向性を決めて進めていた。一昨年あたりからは、教育旅行の担当者だけでは

「東北での教育旅行については、昨年振り替えになったところも今年は戻ってくると思うところが多い

「特に教育旅行部会と一緒にって体験学習